

大学の一般教養科目としての「日本文学」*

——大人数授業の実践報告——

小 川 俊 輔**

要 旨

受講生が200名を超えるようないわゆる「大人数授業」は、授業運営が難しいとされる。講義調の、教員から学生への知識伝達型の、一本調子の授業になりやすいからである。しかし、「授業通信」という手段を用いることで、「大人数授業」においても、双方向的・多方向的な授業実践は可能である。広島経済大学の一般教養科目「日本文学A」において、「授業通信」を用いて授業実践をおこなったところ、極めて高い授業評価を受け、高い学習・教育成果が得られた。

目 次

1. 本稿の目的と方法
 - 1.1 目的
 - 1.2 方法
2. 学習者観と到達目標
 - 2.1 学生自身の学習者観
 - 2.2 授業者の学習者観
 - 2.3 広島経済大学の建学の精神と教育目的
 - 2.4 到達目標
3. 授業実践
 - 3.1 学習環境の整備
 - 3.2 教材観と教材選定のねらい
 - 3.3 授業展開例
 - 3.4 授業通信
4. 学習・教育成果
 - 4.1 授業通信の効用
 - 4.2 成績評価
 - 4.3 学生による授業改善のためのアンケート
 - 4.4 広島経済大学専任教員による授業参観報告
5. 研究の成果と今後の課題
 - 5.1 研究の成果
 - 5.2 今後の課題

参考文献 資料

1. 本稿の目的と方法

1.1 目的

日本では、多くの大学で、多数の受講生を対象とした講義、いわゆる「大人数授業」が開講されている。本稿では「大人数授業」を「履修者200名以上の授業」と定義し、大人数であっても、教員→受講生という一方向的な授業ではなく、教員⇄受講生という双方向的な授業、さらには受講生⇄受講生をも併せた多方向的な授業にするための指導・運営方法について考える。双方向的・多方向的な授業が、学習・教育効果を高めるために有効だと考えるからである。

1.2 方法

本稿は実践研究である。考察の対象とする授業実践は、筆者が2008年度から2011年度まで広島経済大学で担当した「日本文学A」である。4年間の履修者数は、2008年度が236人、2009年度が267人、2010年度が216人、2011年度が189人であった。

筆者の手元にある「日本文学A」の授業記録、

* 本稿は、平成22・23年度広島経済大学特定個人研究費の助成を受けておこなわれた研究「大学での大人数授業における文学講読授業の実践的研究—「『ゼロから立ち上げる』興動人」の育成を目指して—」の成果の一部である。

** 広島経済大学経済学部准教授

成績評価記録、学生のコメント、学生による授業改善のためのアンケート、他の教員による授業の参観報告などを手がかりに考察する。

2. 学習者観と到達目標

第2章では、学習者観と到達目標について述べる。「学習者」とは「日本文学A」の受講生のことである。第1節では、学生自身が、自らをどのような能力や特徴、態度を持った学習者として捉えているのかについて、2011年の第1回授業で実施したアンケート「実態把握のためのアンケート」(資料1)の結果に基づいて考察する。続いて、大人数の授業でも学生が高いモチベーションを保つことのできる授業とはどのようなものかを考え、授業改善のための具体的な提案をおこなうことを目的として立ち上げられた学生組織「創ろう！私たちの授業プロジェクト」のメンバーの学習者観を紹介する。第2節では、授業実践者である筆者の学習者観を記す¹⁾。第3節に広島経済大学の建学の精神と教育目的を記し、以上を踏まえて設定した到達目標について、第4節で述べる。

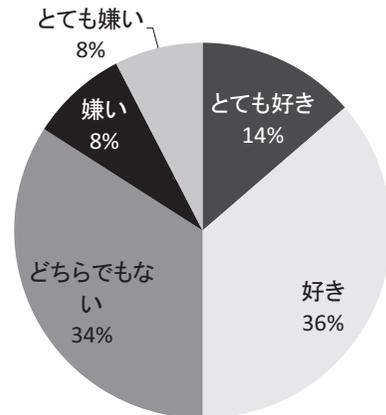
2.1 学生自身の学習者観

(1) 「実態把握のためのアンケート」の結果にみる学習者の実態 (n=有効回答数)

Q1では、小説を読むことが好きかどうかを5段階評価で尋ねた(表1)。「とても好き」と「好き」を合わせると50%になる。他方、「嫌い」と「とても嫌い」が計16%あり、自由記述欄によると、彼らは、小説を読むことを好きになりたくて、あるいは、読む力をつけたくて「日本文学A」を履修している。

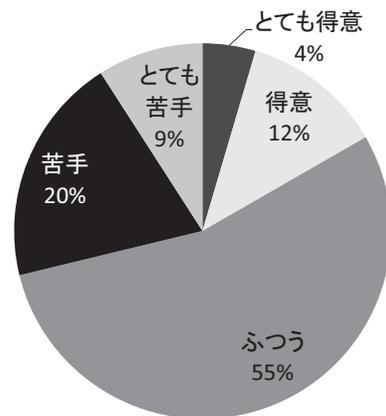
Q2では、小説を読むことが得意かどうかを5段階評価で尋ねた(表2)。Q2の意図は、学生が自分自身の国語力(読解力)をどのように捉えているかを明らかにすることであった。しかし、「『小説を読むこと』が『得意』」という表現

表1 小説に対する好嫌意識 (n=132)



Q1: あなたは、小説を読むことが好きですか?

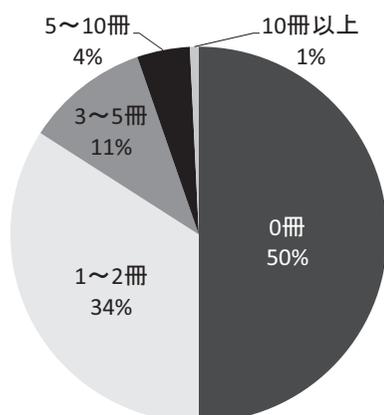
表2 小説講読に対する得意意識 (n=132)



Q2: あなたは、小説を読むことが得意ですか?

は曖昧で、上の意図を明らかにするための質問文として適切ではなかったかもしれない。それでも、おおまかな傾向を捉えることはできるだろう。「とても得意」と「得意」の合計が16%、「ふつう」が55%、「苦手」と「とても苦手」の合計が29%となっている。表1と比較対照すると「好きだけれど得意ではない」学生と「嫌いではないけれど苦手(不得意)」な学生の存在が浮かび上がってくる。

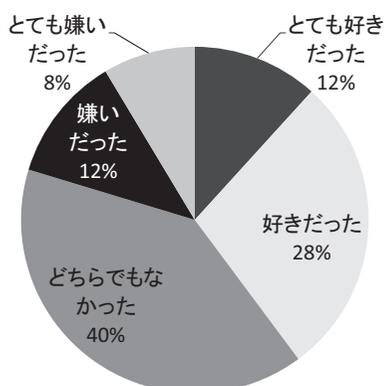
表3 月あたりの小説講読数 (n=132)



Q3: あなたは、月に何冊くらい小説を読みますか?
文庫本1冊を1冊として計算してください

Q3では、ひと月あたり何冊の小説を読むかを尋ねた(表3)。約半数の学生が0冊と答えている。読書習慣がついていないことが分かる。

表4 高校国語の(小説を読む)授業に対する好嫌意識 (n=128)

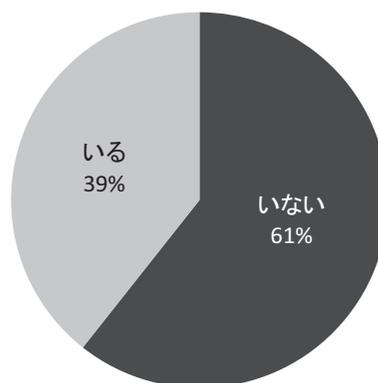


Q6: あなたは、高校の国語の授業(小説を読む授業)が好きでしたか?

Q6では、高校の国語の授業(小説を読む授業)が好きだったかどうかを5段階評価で尋ねた(表4)。表4を見ると「とても好きだった」と「好きだった」の合計が40%、「どちらでもなかった」が40%、「嫌いだった」と「とても嫌いだった」の合計が20%となっている。表1と比較対照すると「小説を読むのは好きだが、授業で小説を読むのは好きではなかった」学生、

「小説を読むのは嫌いではないが、授業で小説を読むのは嫌いだった」学生の存在が浮かび上がってくる。

表5 好きな作家の有無 (n=127)



Q11: 好きな作家はいますか?

Q11では、好きな作家がいるかどうかを尋ねた(表5)。表5のとおり、好きな作家がいないという学生が半数を超え、61%となっている²⁾。

(2) 「創ろう! 私たちの授業プロジェクト」 構成員の学習者観

広島経済大学には、学生が主体となって様々な活動をおこなう「興動館プロジェクト」と呼ばれる仕組みがあり、多くの団体が日々積極的な活動を展開している。その中の1つに「創ろう! 私たちの授業プロジェクト」という団体がある。この団体は、大人数の授業でも学生が高いモチベーションを保つことのできる授業とはどのようなものかを考え、授業改善のための具体的な提案をおこなうことを目的として立ち上げられた。現在は、「高いモチベーションを持つ学生の増加」を目的とした授業の開講・運営を活動の中心としている。こうして2012年度前期から開講されることになった授業が「スポーツで学ぶ共生力」である。

この団体のリーダーを務めた深河亮平氏(広島経済大学経済学部経営学科2010年度入学生)に、授業を創るにあたって、広島経済大学の学

生をどのように捉えたのか、具体的にどのような力が不足していると考えたかを尋ねたところ、「他者理解」と「異文化理解」という2つの言葉が返ってきた。新しい授業を構想する際、メンバーで話しあった結果、広島経済大学の学生は、他者を理解する力が乏しい、特に自分と異なる意見、思想、信条を持つ相手（異文化）を理解する力、姿勢に乏しい、それを克服することを目的の1つとする授業を開講したい、との意見でまとまったとのことであった。

2.2 授業者の学習者観

本節では、授業担当者である筆者が、学習者である広島経済大学の学生をどのように捉えていたかについて記す。広島経済大学の学生は、尊敬すべき美点・長所を多く持っているが、ここでは不足・欠乏しているのではないかと思われる点を5つ挙げる。それは、①読書経験が乏しく、読書の習慣が身に付いていない、②文章表現力が乏しい、③自尊感情が乏しい、④視野が狭く、自己の視点を絶対視しがちである、⑤他者に不寛容、の5点である。2.1 (1) に示したアンケート結果は、①の認識を裏付ける。④と⑤は、2.1 (2) の「創ろう！私たちの授業プロジェクト」の学生たちの学生観に通じる。②は、広島経済大学における筆者の主な担当科目である「文章表現科目」の実践を通じて、③は初年次教育ゼミや3年・4年の演習科目（ゼミ）を担当し、学生と親しく接する中で感得されたものである。「日本文学A」を担当するにあたり、①～⑤の克服を主要な授業目標として位置付け、シラバスを作成し、毎回の授業実践に取り組んだ。この点については2.4で再び触れる。

2.3 広島経済大学の建学の精神と教育目的

私立大学は、それぞれ建学の精神、教育目的を持っている。私立大学の教員は、多かれ少なかれ、それを意識して日々の教育活動にあたっ

ているはずである。広島経済大学は、四書五経の1つ『礼記』にみえる「和を以て貴しと為す」を建学の精神としている。広島経済大学の公式な学校案内である広島経済大学編（2012b）『Hiroshima University of Economics CAMPUS GUIDE 2013』は、建学の精神について次のように説明している。「和の精神」とは、ただ諍いを避けることを意味しているのではありません。自分に厳しく、他人には寛容であり、もてる力を最大限発揮して自分の責任を果たし、互いに助け励ましあいながら、組織全体の調和を図ることを最優先する相互尊重の精神なのです」(p. 5。下線は筆者による。以下同様)³⁾。

教育目的は「『ゼロから立ち上げる』興動人の育成」である。広島経済大学編（2012b）は、その意味するところを次のように説明している。少々長くなるが、全文を引用する。「広島経済大学は、建学の精神、立学の方針にもとづき、真理の探究と、豊かな人間性の涵養を通じて、「正義と勤労を愛し、品格高く責任を重んじ、もって国家社会の発展に貢献し得る人材の育成（学則第3条）」を目指しています。この育成すべき人材像を、現代社会のニーズをふまえて明確に表現したものが「ゼロから立ち上げる」興動人です。「ゼロから立ち上げる」興動人とは、「既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材」のことです。このような人材を育成することによって、地域の経済、文化、スポーツなどの発展に寄与することを目指しています」(p. 5)。

筆者は、広島経済大学の建学の精神および教育目的に深く共鳴している。特に、⑥「他人には寛容」、⑦「互いに助け励まし合いながら、組織全体の調和を図ることを最優先する相互尊重の精神」、⑧「既成概念にとらわれない斬新な発想」の3点に重点を置き、担当する授業、ゼミ、その他の活動をおこなってきた。「日本文学A」

の授業実践においても同様である。

2.4 到達目標

2.1および2.2に記した学習者観、2.3に記した広島経済大学の建学の精神と教育目的を踏まえ、「日本文学A」の到達目標として以下の3つを設定した。

- [1] 近現代の文学作品を読み、味わうことができるようになる。
- [2] 他者の視点を意識し、物事を多面的に捉えることができるようになる。
- [3] 常識を疑い、常に新鮮な気持ちで物事を捉える姿勢を身につける。

[1] は、一見すると「読解力」の育成を目指した文言のように見えるだろうが、そうではなく、「読書力」の育成を目指して設定したものである。自ら進んで本屋や図書館に向き、本を求め、時間を見つけて読書を楽しみ、人生を豊かにしようとする姿勢の涵養を目指したものである。2.1および2.2に記したとおり、広島経済大学の学生は、十分な読書習慣を身に付けているとは言いがたい状況にある。それを打開したいと考えたのである。

[2] と [3] は、2.1および2.2に記した学習者観および2.3に記した建学の精神(⑥・⑦)と教育目的(⑧)に基づいて設定したものである。

3. 授業実践

第3章では、授業実践について述べる。第1節では、学習環境の整備の為に工夫したことから、第2節では、教材観と教材選定のねらい、第3節では、標準的な授業展開例、第4節では、本授業実践研究の根幹をなす「授業通信」について述べる。

3.1 学習環境の整備

学習環境をいかに整備するかについては、中等教育現場を中心に、これまで多くの提案・実践がなされてきた。他方、広島経済大学では、「大人数授業」の運営の難しさ(私語・居眠り)が指摘されてきた(倉田(2007)など)。「日本文学A」は、毎回200名前後の学生が出席する「大人数授業」であった。そこで、筆者も学習環境の整備には多くの労力を割いた。試みたいいくつかの工夫のうち、効果のあったものを4つ紹介する。

(1) 授業開始20分前に教室に入り、配付資料の準備を終える

「日本文学A」の授業は、2008・2009年度は前期に、2010・2011年度は後期に開講された。いずれの年も1限(9:00-10:30)であった。1限の授業では、多数の学生が授業開始直前に教室に滑り込むため、資料置き場に列を作り、学習環境を悪化させる要因となりがちであった。そこで筆者は、20分前に教室入りし、配布物(出席カード、教材、授業通信の3種)を入り口付近に置くようにした。これを数週間繰り返すうち、1限開始のチャイムと同時に教室が静かになりはじめた。

(2) 授業開始から5分間は受講生の心身を落ち着かせ、作品と向き合う「構え」を作らせる時間にあてる

最初の5分では、受講生の心身を落ち着かせ、作品と向き合う「構え」を作らせる時間にあてた。前記のとおり、「日本文学A」は1限の授業であったため、遅刻者が多く、息の上だった状態で席に着く学生が多かった。そこで、全員が私語をやめるまで待ち、教室の外から聞こえてくる小鳥の鳴き声に意識を向かわせたり、広島市の市街地を一望できる窓の外の景色に目を向けさせたりして、心身を落ち着かせる時間をとった。

(3) 遅刻者としての心得を考えさせ、実践させる

どれだけ注意しても遅刻はなくなる。また、遅刻者の存在は学習環境の悪化を招く。そこで、第1回の授業時に、遅刻してしまった場合の振る舞いとしてふさわしい態度とはどのようなものかを考えさせ、第2回の授業から実践させた。意外なことに、学習環境の整備に最も効果があったのは「遅刻してきたとき、教室のドアを音が立たないように優しく閉める」ことであった。たった1人の1つの振る舞いが、教室全体の学習環境を大きく向上させることに、学生自身が気付いたためであろう。

(4) ワイヤレスマイクを使用し、教室内を歩き回り、折々に学生に問いを投げかける

古典的な方法である。教壇にはできるだけ立たず、教室の隅々まで歩き回って、学生の目を見て問いを投げかけ、ときには、マイクを向けて答えてもらった。居眠りの防止、緊張感の持続に効果があったようである(4.4を参照のこと)。

3.2 教材観と教材選定のねらい

本節では、教材名、教材観、教材選定のねらいを述べる。1年ごとに少しずつ教材を入れ替え、最終年(2011年)は、以下のものを取り上げた。作者の50音順に記す(資料2「2011年度日本文学Aシラバス」も参照)。

芥川龍之介「桃太郎」/「羅生門」/井伏鱒二「山椒魚」/江國香織「デューク」/さだまさし「親父の一番長い日」/「関白失脚」/「関白宣言」/「遙かなるクリスマス」/「ママの一番長い日」/志賀直哉「城の崎にて」/重松清「卒業ホームラン」/谷川俊太郎「生きる」/谷崎潤一郎「富美子の足」/夏目漱石「夢十夜」/林京子「空罐」/平松愛理「部屋とYシャツと私」/星新一「未来いそっぷ」/松本清張「一

年半待て」/宮沢賢治「注文の多い料理店」/「よだかの星」/宮本常一「土佐源氏」/美輪明宏「ヨイトマケの唄」/村上春樹「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」/「沈黙」/山田詠美「眠れる分度器」/John Lennon *Happy Xmas (War Is Over)*

基本的な方針として、⑨毎回、異なる作者⁴⁾の短編小説を2作品、⑩近代から現代まで幅広く、詩歌も含めて、⑪読者ごとに異なる解釈が可能な作品、⑫解釈者(学生)の価値観や問題意識が(無意識のうちに)解釈に表出されてしまう作品、⑬小中高の国語教科書に掲載されるなど、多くの学生が1度は読んだことがあると思われる作品、⑭小中高の国語教科書には掲載されない作品((ア)性を扱った作品、(イ)推理小説)、⑮学生の「いま・ここ・わたし」に関わる切実な問題を生々しく扱った作品、特に「人間いかに生くべきか」を問い、考えさせる作品、⑯映像化されている作品⁵⁾・録音されている作品⁶⁾を選んだ。

紙幅の都合上、すべての教材について選定のねらいを記すことはできないが、たとえば以下の教材は、それぞれ次のような意図をもって選んだ。

芥川龍之介「桃太郎」:「桃太郎は正義の味方で鬼は退治されるべきもの」という刷り込み、既成概念を崩す。昔話や絵本で語られる桃太郎は、桃太郎の立場に立った桃太郎でしかない。芥川の「桃太郎」は鬼の立場から見た桃太郎であり、立場が変わると同じ出来事でもまったく異なる「解釈」がなされることに気付かせる。

林京子「空罐」:大学の立地する広島(ヒロシマ)をテーマとする作品は多くあるが、ナガサキをテーマとする作品はそれほど多く

ない。広島県外出身の学生には「原爆文学」に触れさせたい。他方、広島県（特に広島市）出身の学生は、他県の学生に比べ原爆について詳しく知っていると自覚しがちだが、ナガサキのことでさえ、想像力が及んでいない可能性があることに気付かせる。

松本清張「一年半待て」：ある程度の説得力があれば、人は簡単に「1つの物語」に囚われ、客観的・冷静な判断ができなくなってしまうことに気付かせ、自分自身あるいは身の回りにそのような事象がないか思索・探究させる。

宮本常一「土佐源氏」：受講生の持つ貞操観念は、近年作り出された新しい伝統であり、1つの立場・価値観に基づくものでしかない。時代や地域、文化などが異なれば、貞操観念も変化することに気付かせ、自らの貞操観念を相対化させる。

さだまさし「遙かなるクリスマス」、John Lennon *Happy Xmas (War Is Over)*：クリスマスは、元来、イエスキリストの生誕を祝うキリスト教の宗教行事である。しかし日本では、若い恋人たちのための特別な一日として位置づけられている。他方、ミュージシャンの中には、この日を、平和について思いを致す日として捉え、作品を創作している人々がいる。そのような作品をとおして「クリスマス観」を相対化させる。

3.3 授業展開例

授業時間は1コマ90分である。「日本文学A」では、90分を概ね次のように配分した。

00-05	授業規律、日常の話題
05-30	授業通信の読み上げ、コメント
30-50	作品（一）の鑑賞
50-55	自由時間

55-75	作品（二）の鑑賞
75-90	コメントカードへの感想・解釈・疑問点の記入

冒頭の5分は、3.1に記したとおり、受講生の心身を落ちつかせ、作品と向き合う「構え」を作らせる時間にあてた。他方、受講生との心の距離を縮めるべく、授業者の身の回りに起きた1週間の出来事とそれに対する所感を述べることで、積極的に自己開示をおこなった。

続く25分間で、前回の授業時に学生が提出したコメントを元に作成した「授業通信」を読み上げ、各コメントに対して批評をおこなった。たとえば、次のような次第である。

⑰努力したっていいことがあるとは限らないというのは正論だ。だが努力しなければ可能性すらない。小学生の野球チームでレギュラーになれるかなれないか、勝ちか負けか、よく悩むことだろう。野球に限らず、勝負事は結果だけみれば勝ちか負けかしかない。試合に出られるか出られないかしかない。それだけ考えるとつまらないから、過程を大切にす。世の人々はだいたいこの考えだが、その過程についての明確な基準を持っていない人が多いと感じる。試合の内容がどうかなんて考え方次第、野球が楽しいかどうか、人生が楽しいかどうか、自分の考え次第だ (N. K)

→そうだよ。だから、「しあわせはいつもじぶんのところがきめる」。物事の価値をどのように見定め、何に人生の時間を割き、生きていくか。正解はありません。人の数だけあるでしょうね。

⑱人はその環境に応じて、その場に合わせた自分、いわゆるペルソナをつくり、その状態にあった自分を演じる。この物語の主人

公・徹夫も自分の置かれた監督という立場に沿った自分を作り出し、その監督である自分と智の父親である自分の間のずれに苦しんだ。人は常にそのずれに苦しみながら生きている。本当はしたいことがあるが、周りの空気に合わせて勉強をしている自分などがそれにあたる。この選択は間違えであるが、しかし、その場においては正解でもある。世界には人の数だけ正解があり、間違えがある。ゆえにこの物語のあり方も一つの正解であり、間違えである(M. K)

→2011年の「日本文学A」の小川, 2010年の「ことば学入門」の小川, 家でだらけている小川, 歌っている小川。そういう「時間的にも空間的にも複数の自分(人格)」を持つというのは、生きていくうえで、かなり大切なことなんじゃないだろうか。

上のものが学生のコメントで、→以下のものが授業者の批評である。授業通信には、基本的に学生のコメントのみを記載し、授業者の批評は、口頭で(アドリブで)おこなった。上記のものは、2011年度後期・第15回目の授業時(教材は重松清「卒業ホームラン」)に提出されたコメントで、それに対する授業者の批評をおこなう機会がなかった為に、「2011年 日本文学A 授業通信 最終号」として作成し、配布したものである(全文を資料3として本稿の末尾に掲載。授業通信については、次節でより詳しく述べる)。授業者の批評の様態がお分かりいただけると思う。基本的に、学生のコメントを面白がり、共感し、誉めた。

30-50, 55-75は、作品を鑑賞する時間である。集中力の関係から、20分程度の作品を2つ程度取り上げることが多かった。その間5分のインターバルをとり、この5分間は何をしてもよいことにした。さっそく1つ目の作品に対するコメントを書く学生、友人と談笑する学生、

目を閉じている学生等、様々であったが、この時間は自由な時間とし、授業者からの働きかけは極力おこなわないようにした。

なお、読む(観る)のに40~50分程度かかる作品を1つだけ取り上げることもあった。その場合は、途中で休憩を取らず、一気に鑑賞させた。

75-90の15分間は、学生が出席カードにコメントを記載する為の時間である。授業開始当初は、筆者の略歴や作品の主題・梗概を簡単に述べた後に作品を鑑賞させていたが、やめた。コメントの内容も、当初はテーマをしばって書かせていたが、「作品を鑑賞して思ったこと、感じたこと、考えたことを自由に書いてください」という方式に改めた。

3.4 授業通信

「日本文学A」では、毎回、「授業通信」を発行した。この授業通信こそが、本授業実践および本稿の骨格であり、すべてであると言ってもよい。

授業通信は、授業時間に鑑賞した作品に対する学生の感想、解釈、疑問点をA4用紙2~4枚にまとめたものである。広島経済大学地域経済研究所編(2011)『広島経済大学 地域経済研究所年報 第14号(2010年度)』p.15には、2011年1月14日(金)に発行した「2011年 日本文学A 授業通信 第13号」が、本稿の末尾には、資料3として2012年2月3日(金)に発行した「2011年 日本文学A 授業通信 最終号」が掲載されている。授業通信の教育効果・効用については、次章で詳述する。

4. 学習・教育成果

第4章では、本授業実践の学習・教育成果について述べる。第1節では、授業通信の教育効果・効用について、第2節では、成績評価の方法・在り方について述べる。第3節では、受講

生による授業改善のためのアンケートの結果を示す。第4節では、広島経済大学専任教員による本授業実践の参観報告を紹介する。

4.1 授業通信の効用

授業通信には、多くの教育効果・効用があった。主なものを掲げれば、(1) 授業者(教員)と受講生(学生)との対話、学生同士の対話を実現し、(2) 学生に自らの直感や考えを相対化・再考させ、(3) 自己肯定感を生み、(4) 文章表現力を向上させ、(5) 学習集団を育成に大きく貢献した。以上の5点について、適宜、学生のコメントを引用しながら、そのメカニズムについて述べる。

(1) 授業者(教員)と受講生(学生)との対話・学生同士の対話

授業開始当初、授業通信を用いて授業を展開しようと考えたのは、(1)と(2)を期待してのことであった。出席カードへのコメント記載は、多くの授業で取り入れられているようだが、それを授業通信というかたちでまとめ、毎週発行している例は少ないようである。そのコメントに対し、翌週、30分程度、授業者が批評するという活動をとることで、授業者と受講生との対話を実現できる。また、出席カードへの記載については、その日取り上げた作品に対するコメントの他、その日に発行された、授業通信に対するコメントも可とした。それをさらに、翌週の授業通信に掲載することで、授業通信は、学生同士の対話の場としても機能することになった。

① 今回の授業通信をすべて読みました。初めは、みんな何を思って大学に通っているんだろうと思っていました。しかし、同じ思いの人もいるのかと感ずることができました。結局、みんな焦ってるんです。全員ではありませんが。それぞれ、色々考えてい

るんだと思いました。こんなことを言ってしまうと、失礼ですが、経大生はバカばかりだと思っていました。今回の授業通信を見るまでは、ですが。経大生でもこんな文章が書けるのかとすごく驚きました。また、自分が考えていた以上のものがうまく表現されていて、悔しかったです。経大生は勉強ができないとか、バカだとかではなく、自分の可能性に気付いていないだけだと思います。あきらめているだけです。経大生も天才なんです。私も何らかの可能性を持っているはず。まだ見つからないだけなんです。これから、残りの大学生活で何でもいいから、何か見つけたいです(K.K/2012年2月3日/最終号)

② 僕も境遇は異なりますが、一人の人間を深く憎んだことがあります。最初は本当に怒りと憎しみ、殺したいとも思ったこともあり。しかし、時間が経てば、不思議なもので許せるのです。むしろ許せるというか、割りきれるようになるのです。「こいつはこんな人間なんだ」と冷静に見つめることができるようになるんです。今悩んでいる人。割りきって、深い関係にならないようにしましょう。そういう人といったら、そういう人しか周りにいなくなる。新しい出会いを大切にしようがよいと思います。(M.N/2009年7月2日/第11号)

③ は、村上春樹「沈黙」の読後感であるが、単なる感想ではなく、他の受講生への呼びかけとなっている。学生の方も、授業通信への掲載を織り込んで、他の受講生へのメッセージとなるようなコメントを残そうとしていたのである。

(2) 直感や考えの相対化・再考

授業通信には、少なくとも、20名程の学生のコメントが掲載される。他の学生(他者)の書

いたコメントを読むことで、一週間前に、自分が感じ、考え、書いたことが相対化され、再考が促されることになる。他方、コメントが授業通信に掲載された学生も、自身の書いた文章がパソコンによって文字化されることで、自分のコメントそのものが相対化され、再び、新たな視点で作品に向き合う契機となっていたようである⁷⁾。

- ⑳この授業を受講して最も良かった点は、他の受講生の考えや意見を授業通信を通して共有することができた点だ。広島経済大学は偏差値の低い学校であり、これ以外の授業ではうるさすぎて正直授業に出たくないと思うこともあった。また、やけに静かだと皆寝ていたり、何を考えて授業を受けているんだろうと思うこともあった。しかし、授業通信を読むことで、作品に対して自分が感じたものとは全く違うことを感じている人がいたり、全く違う観点から作品を読んでいる人がいるのだということが分かった。自分だって授業中に話してしまうことがあり、寝てしまうこともある。周りと一緒にあり、意見や考えはそれぞれ持っているものだということを理解するようになった。そしてそれに興味を持てるようになって以来、物事に対して寛容に、偏見なくとらえられるようになった(H. H./2012年1月24日/特別号)
- ㉑授業通信で同世代の学生の考えや価値観に触れられたことは、楽しくもあり、自分の中で凝り固まった考え方に柔軟さが生まれました。柔軟さが生まれたきっかけは、「人が育った環境、今置かれている環境によって、1つの文学から受け取るメッセージは違う」ということでした。それはつまり、人によって色々な価値観や考え方があると

置き換えられます。そのことを実感したのは、『夢十夜』の「第三夜」を「六道輪廻」で解釈したものと、「関白宣言」「関白失脚」の時の「浮体はしてもいいけど浮気はだめ」「今から数十年一緒にいようと思ったら、これぐらいじゃないと続かない」というコメントです(F. R./2012年1月24日/特別号)

- ㉒私が一番印象に残っているのは浮気についてだ。どこからが浮気かということについての意見が様々で面白かった。人によって体の関係になったらとか、メールをしたらとか。答えがない問題でも意見を言うことがとても大切なのだと思う。まず、意見を言うことでそのことに誰かが反論をする、そうして自分の考えの間違いに気づき、色々な考え方が身につく一歩になると、この講義をとおして学んだ(K. M./2012年1月24日/特別号)
- ㉓いつの授業だったか、「恋というのは自分の意志・都合だけで動くものではなくて、相手の意志・都合と同じになることで初めて実を結ぶものだ。」と紹介されたことがある。全身がビリッとしびれるような気持ちになった。それは自分の恋愛観と照らし合わせて、痛いところを突かれたからなのではないかと思った。2011年の夏、僕はある女性に恋をし、遊びに誘ったりした。しかしある日、社会人である彼女はある地方へ転勤になったのである。僕は、もう会えないのは嫌だと思い告白したが、相手は転勤のことで頭がいっぱいで、無理だと断られた。この告白を引きずり、傷ついた。だが、この授業通信を読んだとき、自分の行動がいかに相手の都合を考えずにしてしまったものかと思い、本当に愚かだった、もうこのような自分勝手な恋愛的行動は控えてい

こうと考えた (K. K/2012年1月24日/特別号)

(3) 自己肯定感

授業通信へのコメントの掲載は、学生にとって、励みとなる、嬉しい出来事であったようである。

⑲この授業通信は、個人的にはかなりおもしろいと思う。1つはやはり自分と似た意見があると共感するし、「この見方はなかった!」という全く自分の発想にない意見があるとさすがだと思う。2つめに、このプリントの意見に先生からさらにコメントがもらえるのが嬉しい。つついプリントが配られてから自分のイニシャルを探してしまうのは、じぶんだけじゃないはず。(M. M/2009年5月22日に提出された出席カードへの記載)

⑳全く関係ないかもしれませんが、授業通信のプリントが楽しみで毎回休まず来ています。自分ののがのっていて、先生に読まれたりなんかすると嬉しいですよね。休めないうです。(H. A/2009年5月22日に提出された出席カードへの記載)

㉑ついに授業通信に僕の感想がのっちゃいました!!今週で一番嬉しかったです。笑。1回でも授業通信のるのが夢だったのでもう思い残すことはありません!笑 (T. R/2009年6月19日に提出された出席カードへの記載)

但し、授業通信への掲載・不掲載については、配慮すべき問題がある。2008年すなわち最初の年の最後の授業日に提出された出席カードに次のような内容のコメントがあったのである。「私は毎週、出席カードの最後の行まで書いた。し

かし、結局1度も取り上げられることがなかった。内容が薄かったのだと思う。残念だった。」授業通信の作成には、受講者の数にもよるが、平均して3~4時間を要する。1枚1枚読みながら、これは、と思うものを、パソコンに打ち込んでいく。1年目は、作成するだけで手一杯で、上記のような寂しい思いをしている学生に思いが到らなかった。その反省を踏まえ、2年目以降は、どの学生のコメントを掲載したかを記録し、毎回出席している学生については、半期15回の中で、必ず1度は掲載するように配慮した。その為、授業通信の作成にかかる時間は、さらに延びた。

(4) 文章表現力の向上

文章表現力の向上にも、大いに役立ったようである。しばしば見られたコメントに対するコメントの1つに「自分と同じような感想だが、自分は、あのようには表現できなかった。勉強になった。」という趣旨のものがあつた。第1回のガイダンスにおいて、「毎週、出席カードの最終行まで書いてもらいます。最終行まで書かれてないものは、減点します」と話すと、学生たちは一様に嫌な顔をする。実際に、授業開始当初のコメントは、質・量ともに不十分なものが多いのだが、それを15回繰り返すうち、質が高まり、量も増え、やがて、出席カードの裏側にまでびっしりとコメントを残す学生が現れるのである。

(5) 学習集団の育成

授業通信を通じた学生同士の対話により、毎年、教室にある種の団結意識・一体感のようなものが生まれた。大人数授業においては、珍しいことなのではないか。その意識・感覚が、学習環境を整え、学習・教育効果を高めることに繋がっていたように思われる。

㉒この授業の中で生まれた「ナンパの勇氣」はたくさんの人にバトンのようにして渡っ

ているのだと思った。たったひとりのほんの少しの勇気がたくさんの学生の心を動かしている。自分も可能性を信じたいと思ったし、一期一会の出会いを大切にしたい。このように誰かの心を動かせる人に自分もなりたい。この授業には寝てる人、集中している人、色々な人がいたが、コメントを見ていると色々な人がいたからこそ、この感想が読めるのだと、皆に感謝している (N. T/2012年2月3日/最終号)

㊦毎回の授業通信を通して、この授業を受けている人たちは本当に向上心があるなど感心させられっぱなしでした。小説を読んだ後の何とも言えない気持ちをうまく表せないとき、通信の感想たちに何度ハッとさせられたか分かりません。正直、個人で受ける授業であるにも関わらず、ここまで一体感というかある種の団結感を感じたのは初めてでした。いつかの通信に千原ジュニア氏の「去年の自分はずまらなかったといつも言っていたい」ということばに感銘を受けたという意見が複数あった回がまさに、私が思う一体感と向上心の強さを感じました (F. A/2012年/2012年1月24日/特別号)

㊧できればこの授業に出ている考えるのが好きな人たち全員と友だちになりたいくらいです。私に限らず、人間はある程度、視野を狭くしなければ物事を見ることができないと思います。着眼点とか、方向というやつです。その視野の中で考えることも大事です。自分以外の人は自分とは違う視野を持っているということがいかに楽しいことかを痛感しました (N. K/2012年/2012年1月24日/特別号)

4.2 成績評価

本節では、視点を変えて、成績評価の方法について記す。正直に告白すれば、筆者は、成績評価をおこないたくなかった。武藤 (2007) が明快に指摘しているとおり、文芸を楽しむ「読書」という行為に、評価はなじまないと考えるからである。本授業は、大学入試突破のための読解指導をおこなうものではない。大学の教養教育としての文学講読である。しかし、どうにかして、秀、優、良、可、不可、評価不能の成績をつけなければいけない。模索した結果、本来あってはならないことだが、毎年、評価基準を変えた。

1年目：毎回の出席カードへのコメント
70%，期末レポート30%

2年目：毎回の出席カードへのコメント
42%，期末試験58%

3年目：毎回の出席カードへのコメント
60%，授業態度・学習意欲10%，
期末試験30%

4年目：同上

2年目からは期末試験を実施した。2年目・3年目の試験問題は、(ア)授業で取り扱った作品の一部を示し、作者名と作品名を答えさせる問題、(イ)受講をとおして感じたこと、学んだこと、考えたことを自由に記述させる問題、の2題を出した。4年目は、(ア)をやめ、(イ)のみとした。毎回出席し、最後の行まで粘り強く真面目にコメントを書いた学生は、それだけで単位が認定されて良いはずだと考えたのである。

期末試験は、大学から強い要望があって実施することになった。試験問題は(ア)・(イ)とも事前に開示した。最後まで受講を続けた学生は、よく準備をして試験に臨んでいた。結果として、出席不良者以外は、全員に単位を認定した。

4.3 学生による授業改善のためのアンケート

広島経済大学では、セメスター毎に、学生による授業改善のためのアンケートが実施されている。表6～8は、回答者数毎の授業評価点を図表化したものである（2008～2010年度）。○で囲まれた◆が、本授業実践の評価点である。大人数授業の中では、一貫して、最も高い評価を得ている。4年間の履修者数・アンケート回答者数を〔年度：履修者数／回答者数〕のように示す。〔2008：236/152〕〔2009：267/155〕〔2010：216/131〕〔2011：189/84〕

2011年度は、履修者189名、アンケート回答

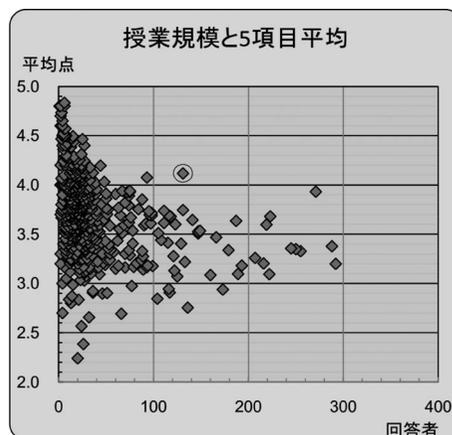


表8 広島経済大学 平成22年度後期 授業評価「授業規模と5項目平均」¹⁰⁾

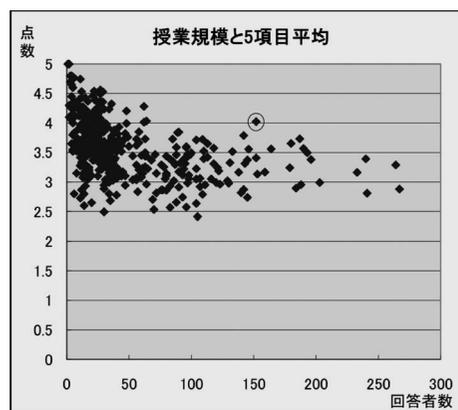


表6 広島経済大学 平成20年度前期 授業評価「授業規模と5項目平均」⁸⁾

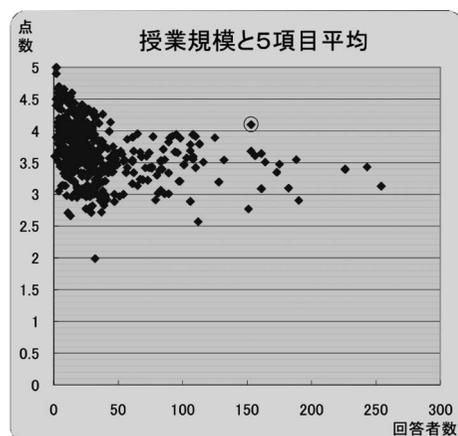


表7 広島経済大学 平成21年度前期 授業評価「授業規模と5項目平均」⁹⁾

者84名で、1.1で設定した「大人数授業」の定義から外れる。また、2011年度から、表6～8と同種の表（回答者数毎の授業評価を表覧したもの）が公開されなくなったため、詳細は不明であるが、2011年度は、アンケート回答者数51～100名の授業の中で最高の評価を得たとのことである。

「学生の満足度」という点では、一定の評価が得られたことになる。勿論、「学生の満足度が高い授業が、そのまま優れた授業である」と考えるのは早計である。あくまで1つの指標として捉えるべきである。

4.4 広島経済大学専任教員による授業参観報告

広島経済大学では、年1回以上、他の教員の授業（非常勤講師の担当授業も含む）を参観し、報告書を書くことが求められている。過去、おふたりの先生が「日本文学A」の授業を参観された。以下に、参観報告の一部を引用する。同じ大学に勤める同僚から見た本授業実践の位置、効果等を知ることができる。

(1) 教員A

まず、小川先生がワイヤレスマイクをつけて、教室の中を歩きながら話をされるのが新鮮でした。学生たちも、先生が近くまで来てくれるこ

とでより親近感を持つようになりますし、内職の防止にもなると感じました。それから、毎回、A3の用紙にびっしりと文字の詰まった授業通信を出されていることに感動しました。毎週、大変な作業量だと思います。頭が下がるばかりです。学生たちは驚くほど真剣に聞いていました。小川先生の言葉や、今日聞いた歌の歌詞の一つ一つが、学生たちの心に響いているようでした。学生たちがいろいろなことを考えるいいきっかけを、毎回作ってくださっているのだと思いました。知識だけではない、人としてとても大切なことを教えてくださっていると思いました。

(2) 教員 B

今回、授業を参観させていただきましたが、小生も文学の授業を担当しており、文学をどの程度の広さあるいは深さにおいて提示するか、学生をどう扱うか、要するに、内容とパフォーマンスの二点を重点的に見せていただきました。

〔内容〕講義は、①前回の出席簿のコメントを「授業通信」としてまとめ、受講生に紹介する、②取り扱った作品の回顧（今回は DVD）、③本日のテーマ作品の朗読による紹介、④教師からのメッセージ（ジョン・レノンの Happy Xmas）、で組み立てられ、最後に出席簿へ感想を書き込んで提出。この流れの中で、多くの考えるヒント、生きるヒントが先生の個人的体験を通じて学生に提示される。その利点は、学生が、文学を堅苦しい勉強の対象ととらえず、自らの日常と地続きの身近な問題ととらえ、自ら生き方を問い直すきっかけとする所にある。本日は「原爆文学」を軸にされようとしたが時間不足が惜まれる。ただ、最後の、美しいメロデーにのせた so happy なクリスマスのバックに流れる痛切な不幸の映像が伝えるメッセージは心ある学生に十分届いたと思われる。

〔授業法〕学生の私語が静まるのを、注意をうながしつつ辛抱強く待つ。教壇にたたず、フロ

アを移動しながら語り、あるいは、読む。それも明瞭なよく通るく声で。私的で卑近なエピソードをてらいなく披瀝する。表情はあくまでリラックスして講義用の顔ではない。一言で言って、若さにあふれるパフォーマンスである。150人ほどの受講者をひきつける磁力はこの辺に発生しているのではあるまいか。出席カードのチェックとまとめ、教材の選択と準備には大変な手間がかかるものと想像されますが、これも若さの熱意とエネルギーでこなされていて、大変刺激を受ける講義でした。

5. 研究の成果と今後の課題

5.1 研究の成果

筆者の専門は、実は、日本文学ではない。文学ですらない。日本語学である。しかし、広島経済大学への着任と同時に「日本文学 A」の授業担当を拝命し、4年間、模索しながら実践を続けた。本稿は、その実践記録である。

文学を専門としない筆者が、一般教養科目として、大学生に、しかも大人数の受講者を相手に、どのように授業を展開すべきか。その間に対する1つの回答が授業通信であった。そして、①②～⑥の受講生コメント、4.3に示した学生による授業改善のためのアンケートの結果などを見れば、学習者の実態や広島経済大学の建学の精神と教育目的に照らして立てた3つの到達目標(2.4)は、概ね、達成できたのではないかと考えている。

5.2 今後の課題

残された課題は多い。以下では3つだけ述べる。

(1) 授業準備に時間がかかりすぎるのではないかな？

授業の準備に、多大な時間と労力が必要である。教育活動が大学教員の本務であることは疑いないが、1回の授業あたり3～4時間かかる

「授業通信」方式を、担当するすべての科目に適用することは不可能である。但し、1つの解決策がある。それは、出席カードへのコメントを手書きではなく、メールで提出させるのである。パソコン教室で授業を実施すればよい。教員がコメントを入力する手間が省け、カット & ペーストで授業通信を作ることができる。しかし、手書きだからこそ、書けることがらがあるのではないかという気もする。

(2) 本当に読書の習慣は身に付いたのか？

授業期間中は、毎週、作品に触れる。問題は、授業後にも、学生が読書を続けているかどうかである。その実態を明らかにするには、継続調査をおこなう必要がある。しかし、単位が認定された後の指導となると、これは、一講義の範囲を超えている。他の先生方との連携が必要になる。たとえば、広島経済大学には、文学系の授業として、「日本文学A」の他、「文学入門」「日本文学B」(古典文学)、「外国文学A」(アメリカ文学)、「外国文学B」(フランス文学)が開講されている。それらの講義に、「日本文学A」の単位修得者を誘導する方法があり得る。実際に、最終回の授業では、それらの授業が開講されていることを紹介し、受講を薦めた。他方、ゼミ担当教員にお願いし、読書活動をゼミの必須課題として課してもらうという方法もある。これは実践していない。「読書」に「課題」はなじまないとも思われるからである。

(3) 授業で扱っているのは短編ばかりだ。長編を読めてこそその読書力ではないか？

的を射た批判である。しかし、まずは短編から、短編さえ難しければ、詩・短歌・俳句から、それも難しいならば、絵本から始めるべきである。短編が読めるようになれば、中編、長編と進んでいく。実際に、山田詠美「眠れる分度器」は中編と言い得る長さのもので、授業では2回に分けて取り上げた。また、「眠れる分度器」を含む同氏の『ぼくは勉強ができない』を課題図

書として挙げ、レポートを提出した学生には、プラス点を与えることにし、読書を促した。このような取り組みを粘り強く続けていく必要があるだろう。

[付記] 生塩睦子先生には、教育・研究・学内業務はもちろん、私的な面においても、多大で貴重なご指導を賜り続けてまいりました。この場を借りて、篤く御礼申し上げます。ありがとうございました。

注

- 1) 広島経済大学の学生像(学習者観)については、生塩(2007)、倉田(2007)、榎本(2007:2011)、森田(2004)などに言及がある。
- 2) 本稿では取り上げないが、好きな作家がいる場合、作家の名前を複数回答可として書いてもらった。
- 3) 倉田(2007)は、広島経済大学の建学の精神「和を以て貴しと為す」を、日々の授業実践の中でどのように取り扱うことが適切か、という問題意識に基づいて、授業の方法論に焦点をあてて考察している。
- 4) 表5のとおり、好きな作家がいない学習者が過半数であったため、できるだけ多くの作家を紹介し、その中から1人でも好きな作家が生まれることを期待した。
- 5) 芥川龍之介「羅生門」、江國香織「デューク」、谷崎潤一郎「富美子の足」、夏目漱石「夢十夜」、村上春樹「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」については、原作を基に作られた映像作品を鑑賞させた。
- 6) 芥川龍之介「羅生門」、井伏鱒二「山椒魚」、さだまさし「親父の一番長い日」「関白失脚」「関白宣言」「遙かなるクリスマス」「ママの一番長い日」、志賀直哉「城の崎にて」、平松愛理「部屋とYシャツと私」、宮沢賢治「注文の多い料理店」「よだかの星」、美輪明宏「ヨイトマケの唄」、John Lennon *Happy Xmas (War Is Over)* については、朗読CDまたは演奏CDを聞かせた。注5・6の双方に該当しない作品は、筆者が朗読をおこなった。
- 7) 「他者による文字化」の学習・教育効果については、同僚の武藤清吾先生(広島経済大学経済学部教授)よりご教示を賜った。また、「授業通信」というアイデアそのものも、武藤先生から教えていただいたものである。
- 8) 広島経済大学編(2008)より転載
- 9) 広島経済大学編(2009)より転載
- 10) 広島経済大学編(2011)より転載

参 考 文 献

- 小川俊輔 (2009) 「日本語教育での取り組み—「日本文学A」授業実践からの提言—」広島経済大学平成21年度第1回FD研修会(テーマ「「読解力」をどう育てるか」)発表資料, 2009年7月23日, 広島経済大学
- 小川俊輔 (2011) 「大学での大人数授業における文学講読授業の実践的研究—『ゼロから立ち上げる』興動人」の育成を目指して—(【平成22年度助成分 中間報告】)」『広島経済大学地域経済研究所年報』第13号, pp. 13-15
- 小川俊輔 (2012) 「大学での大人数授業における文学講読授業の実践的研究—『ゼロから立ち上げる』興動人」の育成を目指して—(研究成果報告【平成22年度助成分】)」『広島経済大学地域経済研究所年報』第14号, pp. 2-6
- 生塩睦子 (2007) 日本語表現力向上を目指して—「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」での取り組み—『広島経済大学研究論集』第30巻第1・2号, pp. 29-41
- 倉田侃司 (2007) 「建学の精神を具体化する試み」『広島経済大学研究論集』第29巻第4号, pp. 51-55
- 広島経済大学編 (2008) 『授業アンケート集計結果 平成20年度前期』広島経済大学
- 広島経済大学編 (2009) 『授業アンケート 集計結果 平成21年度前期』広島経済大学
- 広島経済大学編 (2011) 『授業アンケート 集計結果 平成22年度後期』広島経済大学
- 広島経済大学編 (2012a) 『学生による授業評価 集計結果 平成23年度後期』広島経済大学
- 広島経済大学編 (2012b) 『Hiroshima University of Economics CAMPUS GUIDE 2013』広島経済大学, p. 5
- 根本伸悦 (2007) 「「地域貢献型キャリア教育」という夢と現実の狭間で見てきたもの—興動館教育プログラムの事例より—」『広島経済大学研究論集』第30巻第1・2号, pp. 59-63
- 根本伸悦 (2011) 「学生プロジェクトにおけるマネジメント研究—プロジェクト参加動機の変移—」『広島経済大学研究論集』第34巻第1号, pp. 71-75
- 武藤清吾 (2007) 「芥川龍之介編『近代日本文芸読本』と大正・昭和前期の国語教育」『広島経済大学研究論集』第29巻第4号, pp. 57-75
- 森田裕司 (2004) 「新入生対象の講義「キャンパスライフ実践論」の試み」『広島経済大学研究論集』第27巻第3号, pp. 67-72
- 吉田裕久 (2005) 『陽だまり—教育・国語教育への提言—』

資料2 「2011年度 日本文学A シラバス」

科目名	日本文学A	授業コード	13070	担当者名	小川 俊輔
副題	日本近代文学、描かれた人間像を読み解く				
単位数	2.0	配当年次	1	開講学期	2011年度 後期
教職免許種類					
到達目標	<p>1. 近現代の文学作品を読み、味わうことができるようになる。</p> <p>2. 他者の視点を意識し、物事を多面的に捉えることができるようになる。</p> <p>3. 常識を疑い、常に新鮮な気持ちで物事を捉える姿勢を身につける。</p>				
授業内容	<p>【授業内容】</p> <p>この授業では、原則として各回一人の作家(明治時代以降に生まれた作家)の作品を取りあげて読んでいきます。既に高い評価を受けている作品の中から、(1)「学校」や「教室」が舞台となっている作品、(2)「家族」をテーマにした作品、(3)虚構性が強い作品を中心に選んでいます。教員の解説は、(a)作品中に描かれた人間像を読み解くこと、(b)作品の主題を読み解くこと、に重点を置いて行います。</p> <p>毎回、受講生には意見・感想を書いてもらいます。それを他の受講生が読んだときに、新しい視点を与えられ、感性が磨かれ、ひいては作品を読む力が伸びるような意見・感想が書けるよう、主体的に授業に臨んでください。そのことによって、[教員→受講生]という一方的な授業ではなく、[教員⇄受講生]という双方向的な授業、さらには[受講生⇄受講生]をも併せた多方向的な授業が成立すると考えています。</p> <p>【学習方法】</p> <p>(1)予習は必要としません。(2)毎回、意見・感想を書いてもらい、それを翌週紹介します。(3)教員の解説と他の受講生の意見・感想を参考にしながら、改めて作品を読み返してください。</p> <p>【心構え】</p> <p>この授業が受講生にとって実りの多いものとなるかどうかは、受講生自身の姿勢・心構えにかかっています。そのことを念頭に置き、主体的に授業に参加してください。</p>				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、夏目漱石「夢十夜」～主人公が見た恐ろしい夢とは？～</p> <p>第2回 芥川龍之介「羅生門」「桃太郎」「猿蟹合戦」～「生きるために仕方なくする悪」は許されるか？～</p> <p>第3回 志賀直哉「城の崎にて」、井伏鱒二「山椒魚」～「生きる」とは？「死ぬ」とは？～</p> <p>第4回 宮沢賢治「注文の多い料理店」「夜鷹の星」～料理はもうすぐできます、すぐたべられます～</p> <p>第5回 宮本常一「土佐源氏」～真実の愛？それとも…～</p> <p>第6回 江國香織「デューク」、谷崎潤一郎「富美子の足」～これは恋ですか？愛ですか？～</p> <p>第7回 さだまさし「関白宣言」「関白失脚」、平松愛理「部屋とYシャツと私」～様々な「夫婦」のかたち～</p> <p>第8回 星新一「ポッコちゃん」「未来いそっふ」～ショート・ショートを味わう～</p> <p>第9回 村上春樹「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」、松本清張「1年半待て」～あなたは僕にとつての100パーセントの女の子なんです～</p> <p>第10回 村上春樹「沈黙」～自分が誰かを無意味に、決定的に傷つけているかもしれない～</p> <p>第11回 美輪明宏、さだまさし、平松愛理～夫婦愛、親子愛、家族愛～</p> <p>第12回 山田詠美「ぼくは勉強ができない(前半)」～あなたはこの教師のことをどう思いますか？～</p> <p>第13回 山田詠美「ぼくは勉強ができない(後半)」～あなたは秀美のことをどう思いますか？～</p> <p>第14回 林京子「空罐」、原爆の詩、平和の詩～ヒロシマ・ナガサキ～</p> <p>第15回 重松清「卒業ホームラン」、なぜ私たちは小説を読むのか～家族みんなで、ホームインしよう～</p>				
準備学習等の指示	<p>毎回、問題意識をもって受講すること。</p> <p>受講後は学習内容を整理して、テストに備えること。</p>				
教科書	<p>教科書は使用しません。毎回プリントを配付します。</p> <p>受講者は第1回の授業までにA4版の簡易ファイルを購入しておいてください。</p>				
参考文献	必要に応じて、授業中に適宜提示します。				
成績評価方法	<p>各回の意見・感想60点(15回×4点)、授業態度・学習意欲10点、期末試験30点により評価します。</p> <p>山田詠美『ぼくは勉強ができない』(新潮文庫)を読み、780-800字程度のレポートを提出すれば、10点を加算します。</p>				
備考	<p>① 公認欠席の場合は、公認欠席者用課題用紙を受け取り、課題に取り組み、提出してください(原則として次週の授業前日までに提出)。</p> <p>② 受講中の私語・飲食は厳禁です。守れない人は以後の出席を認めない場合もあります。</p> <p>③ 私語によって授業の進行が著しく阻まれる場合、学籍番号順による座席指定に切り換えます。</p>				

資料3 「2011年 日本文学A 授業通信 最終号」(2012年2月3日発行)

2012/2/3

11 後【日本文学A】授業通信 最終号

小川俊輔(本館4階008)

1. 授業通信(と小川の話)について

- ①日本人は残念な民族。たしかにダメですよ、でも、聖書がどれだけのものなのかと考えれば、僕には別の考えがあります。同じキリスト教でもカトリックかプロテスタントによって異教になる。ユダヤ人は○
○な人種だと決めつける。宗教は人の考えを狭くする、というのを聞いたことがある。それを思うと、週刊誌で芸能人の情事に興味を向けるのも、ワンピースを学校で読むのも、変わらないのでは？どちらも人間的でいいのではと考えました(H.H)
→こういう意見をさらりと書けるというのは本当に素晴らしいことです。片寄らず、思考停止せず、自分で考え、歩んでいく。宗教はともかく、哲学や思想はすべての学生に持っていてほしいと思います。
- ②この授業の中で生まれた「ナンパの勇氣」はたくさんの人にバトンのようにして渡っているのだと思った。たったひとりのほんの少しの勇氣がたくさんの学生の心を動かしている。自分も可能性を信じたいと思ったし、一期一会の出会いを大切にしたい。このように誰かの心を動かせる人に自分もなりたい。この授業には寝てる人、集中している人、色々な人がいたが、コメントを見ていると色々な人がいたからこそ、この感想が読めるのだと、皆に感謝している(N.T)
→ふとした何気ない一言が、些細な行動が、誰かを勇気づけ、励ますことがある。そしてその逆に、苦しみ、悩ませ、傷つけることがある。それを自覚すること。謙虚であること、感謝すること。
- ③授業通信については、やけに小説？のような書き方をする人が増えたように思う。良い言い方をすれば感性の話になるし、悪く言えば文章を長くする作戦のようにも見えた(Y.T)
→このように、多面的に物事を捉えることが何より大切。そして粘り強く考え続けること。
- ④31番の感想を読んで、正直に面白いと思った。確かにこの人は7回休んでいたとしても十分、単位を出してもいい。しかし31番の人も、7回休んだ分の努力はすべきだと思う(Y.S)
→さて、どうなりますかね。
- ⑤先生の授業を受けてよかったと書いている人が多く嬉しかったと言っていたが、それは単位を取るためのお世辞だと思う。そこでもし先生の駄目なところを書いたら減点されるということを知りたがる。僕もそれを恐れて先生の良いところばかりしか書くことができなかった。結局言いたかったのは、もう少し厳しくしてもらわないと学生もだらけてしまうということ(M.N)
→具体的内容のない、誠実さの伝わらない「褒め言葉」は減点しました。一方で、授業改善のために、正直に、小川の授業方法の問題点を指摘し、改善策を示してくれている答案も複数ありました。高校まで、確かにイエスマンであることを求められてきた場合があるのかもしれない。でも大学は違います。教員と学生が、対等なひとりの人間として正々堂々と議論をぶつけるべき場所です。それはよく覚えておいてほしい。それから、厳しくされないとだらけてしまうというのは、理解はできるけれど、最終的には一人ひとりの心の問題ではないでしょうか。毎回出席カードの裏面までびっしり書いている学生が何人もいました。小川の話をも、姿勢を正して聞きながら聞く学生もいました。
- ⑥私としては、大学はもっと授業が面白くあってほしいのだ。お金を払って授業を受ける、これは高校から大学まで決まり切った流れだが、こういった中で授業にでられないやつは駄目なやつといった風潮が大学内で流れていると思う。しかし、私が思うに、この大学にはおもしろい授業がそんなになくはないと思う(T.S)
→確かに、「授業にでない学生＝落第生」というのは一面的な見方だと思います。それから、小川が大学生だった頃も(客観的には)面白くない授業がほとんどだったと記憶しています。でも、その授業を楽しむことはできる。高杉晋作・野村望東尼の句「おもしろきこともなき世を おもしろく すみなすものは 心なりけり」、相田みつを「しあわせはいつも じぶんのこころがきめる」という言葉を小川は大切にしています。
- ⑦今回の授業通信をすべて読みました。初めは、みんな何を思って大学に通っているんだろうと思っていました。しかし、同じ思いの人もいるのかと感ずることができました。結局、みんな焦ってるんです。全員ではありませんが、それぞれ、色々考えているんだと思いました。こんなことを言ってしまうと、失礼ですが、経大生はバカばかりだと思っていました。今回の授業通信を見るまでは、ですが、経大生でもこんな文章が書けるのかとすごく驚きました。また、自分が考えていた以上のもののがうまく表現されていて、悔しかったです。経大生は勉強ができないとか、バカだとかではなく、自分の可能性に気付いていないだけだと思います。あきらめているだけです。経大生も天才なんです。私も何らかの可能性を持っているはず。まだ見つからないだけなんです。これから、残りの大学生活で何でもいから、何か見つけたいです(K.K)
→「経大生はバカ」という空気の中で過ごしていると、ほんとうに、バカな経大生になってしまいます。空気というのはそういうものです。でも、経大にはなかなか面白い学生がいることは、授業通信を読めばよく分かるでしょう。自分から強く求めれば確かに得られる。友情も、愛情も。そして、伸ばしあうことができる。それを疑う時間があれば動いてみよう。時間は待ってくれない。人生を無為にすごさないように。

2. 重松清「卒業ホームラン」を読んで

- ①決して上手くはないけれど、好きだから頑張る。みんな忘れそうな、物事を始める一番最初の理由を思い出させてくれる作品だった。勝ち負けではない人間同士の折り合い、実力ない息子を試合に起用するかどうかの葛藤が伝わってきた。一所懸命練習してきた弟が最後の試合に出られなかったのを見た典子はどう感じたのだろうか。努力をしても無駄だと感じたのか？6年間ずっと頑張ってきた息子を最後の試合で起用しなかった父親をどう思ったのか？(I.K)
- ②自分がもし補欠だったら、自分の実力で試合に出たい。同情で出られたとしても嬉しくない。智も試合に出られなかったことは悲しいと思うが、自分にはまだ足りないものがあると気付くこともでき、そのためにまた努力することができると思う。智にとっては長い目で見て、よいことだった(M.Y)
- ③私は小学校から野球を始めて、中学生では、硬式野球部に入った。だから、野球にかんすることなら分かる。智は、この先、凄いい選手になると思う。野球というスポーツは、好きと思うだけでも上手くなる。誰よりも努力する智は強い(N.T)
- ④結局人生は選択の繰り返しで、人任せにして自分の現状の責任を誰かに押しつけるなんて、滅多にするもんじゃない。「野球が好きだから」このシンプルな答えが、とても好きでたまらない(H.H)
→好きになっちゃえばいいんだなあ。仕事も、部活動も、勉強も、友情も、恋愛も。あとはどうにかなる。ならなくても損はしない。嫌な気にならない。好きだと思えばいい。どんなものにも、どんな人にも、どんな土地にも、愛すべきところって、あると思う。
- ⑤「頑張っても報われない」のではなく、「頑張ったらよいことがあるかもしれない」、そして、頑張らないものは何も得ることができないと考えなければいけない。典子は、智が一所懸命に練習した結果、結局試合に出られなかったのを目の当たりにして、「頑張ってもいいことないじゃん」と口にしたが、最初から諦めている限り、結果はついてこない(S.S)
- ⑥人生というものは、自分の思い通りにすべて行くことは絶対ない。それでも努力する智は小学生の域ではありえない。しかしどの分野でも成功した人物の伝記などを読むと、1回は何かしら挫折し、立ち上がって成功している。どんな人間も失敗を繰り返して育っていく(O.S)
- ⑦努力をすれば報われるということはよく言われるが、そうでないことの方が多いのではないかな。とても理不尽な世の中だと思うが、私は努力なしには人は成長できないと思う。努力することに対して損だとか得だとかを考えては、何もできなくなってしまう。努力することとは何もしないことより難しいことが、実際に行動することで自分にも分からない世界が見えてくるかもしれない。変わることもできる。努力しても報われないと考えるよりも、努力をすれば何かが変わるんだと思った方が、人生楽しく生きれるのではないかな(I.Y)
- ⑧「努力しても報われない」という典子の意見は非常に現実的だ。しかし、人間は努力しなければ生きていけない…とも思う。何かの困難に遭遇したときに、そのときは諦めても何年か経った後に、大きな後悔をしてしまうからだ。だからといって常に100%の努力をしなければならぬというわけではない。自分が納得できる努力ができたら良いと私は思う。だからどんな些細なことでも自分も褒めてやると言うことが大切だ(M.H)
→好きなことを見つけてそれに打ち込む。単純なことだけれど案外難しい。結果を悲観しない。しかし、過程だけは、自分で振り返って(他の人から見ても)胸を張れるようでありたい。時々、自分を褒めて、励まして、期待しながらね。
- ⑨努力したっていいことがあるとは限らないというのは正論だ。だが努力しなければ可能性すらない。小学生の野球チームでレギュラーになれるかなれないか、勝ちか負けか、よく悩むことだろう。野球に限らず、勝負事は結果だけみれば勝ちか負けかしかない。試合に出られるか出られないかしかない。それだけ考えるとつまらないから、過程を大切に。世の人々はだいたいこの考えだが、その過程についての明確な基準を持っていない人が多いと感じる。試合の内容がどうかなんて考え次第、野球が楽しいかどうか、人生が楽しいかどうか、自分の考え次第(N.K)
→そうだね。だから、「しあわせはいつも じぶんのこころがきめる」。物事の価値をどのように見定め、何に人生の時間を割き、生きていくか。正解はありません。人の数だけあるでしょうね。
- ⑩人はその環境に応じて、その場に合わせた自分、いわゆるベルソナをつくり、その状態にあった自分を演じる。この物語の主人公・徹夫も自分の置かれた監督という立場に沿った自分を作り出し、その監督である自分と智の父親である自分の間のずれに苦しんだ。人は常にそのずれに苦しみながら生きている。本当はしたいことがあるが、周りの空気に合わせて勉強をしている自分などがそれにあたる。この選択は間違えであるが、しかし、その場においては正解でもある。世界には人の数だけ正解があり、間違えもある。ゆえにこの物語のあり方も一つの正解であり、間違えである(M.K)
→2011年の「日本文学A」の小川、2010年の「ことば学入門」の小川、家でだらけている小川、歌っている小川。そういう「時間的にも空間的にも複数の自分(人格)」を持つというのは、生きていくうえで、かなり大切なことなんじゃないだろうか。
- ⑪重松清の作品は「家族」をテーマにしたものが多い。中年を迎えた父親が主人公の作品が多く、私の父も死んで読んでる。私も父の影響でよく読んでるが、この人の作品はとても温かみがある。いじめや人の死、家庭崩壊や学級崩壊、様々な現実的な問題をテーマにしているにも関わらず、「どこかにある希望」「や」と人の間にある優しいもの」が確かにあると訴えてくる(F.N)

3. 授業に対する意見・要望、その他の感想・質問など

～こんなの読みたい、こんなのが好き、これがお薦め～

- ①伊坂幸太郎が好き。初めて読んだのは「陽気なギャングが地球を回す」。ぜひ読んでください(K.R)